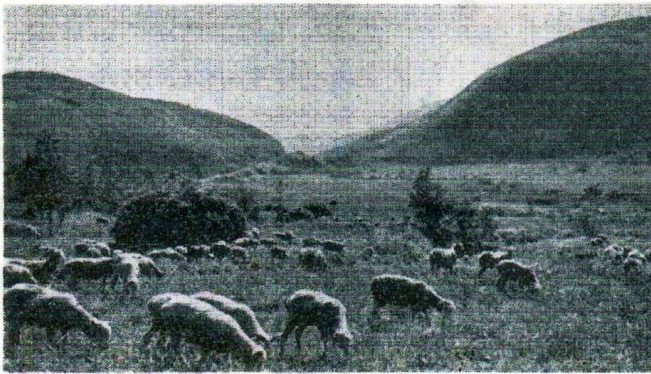


猪の瀬戸の歴史シリーズ③

## 放牧地として

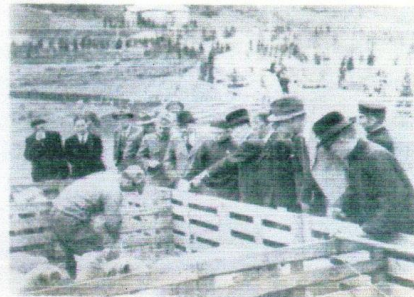


猪の瀬戸の緬羊（昭和初期）

城島高原は昔、鬼島高原といわれた山奥の地であった。昭和8年、油屋熊八の仲介により鐘ヶ淵紡績が城島高原を用地買収し、翌9年に緬羊飼育場を建設したのがはじまりで、11年牧場は完成した。最初はオーストリアから1132頭の緬羊が輸入され、数千頭まで増えた。その後、5千頭を越えるアンゴラ兎も飼われるようになった。

このとき、猪の瀬戸湿原一帯も緬羊の放牧地として活用されていた。

これらの羊やウサギの毛は軍需に供されていたという。  
戦後になって、牛も飼われるようになった。



緬羊飼育場

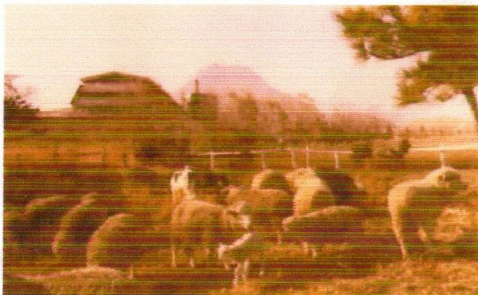


写真1. 戦後の緬羊飼育



写真2. 羊毛刈り風景

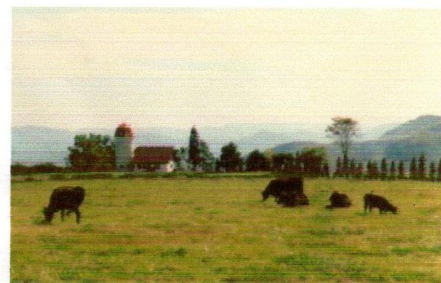


写真3. 戦後は黒牛も放牧されていた

\* 【写真1. 2. 3. は (株)城島オペレーションズ提供】